

元治記事

八

内閣文庫			
五函	二七〇八	和	
一册	六	書	
一架	號類		

(八カ)

内閣文庫	
番號	和 27086
册數	51(36)
函號	151 1



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



明治十年購求

子 九月廿五日 松平信家公殿御達

御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書

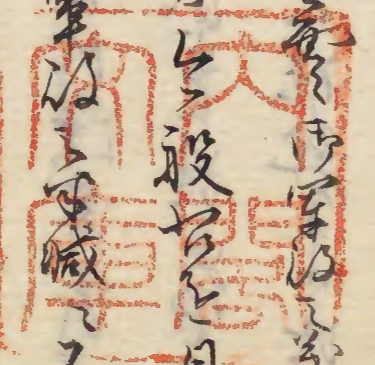
御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書

御進奉此等之書



他送平版木用意之改事

一 馬之飼料之於用意之如至其代料之日數
應之進之

款境

御陣之官之為三馬以下其外也然給之代
之人自來之令高之以此時皆極干香之也其
お前之官之之禁也之改事

他瑞葉清之給之日數之改事極其用意

之改事極其用意

之改事極其用意

一 送之高性名之百之少之教其時之馬之若給之

五之助之助之所十之少之改事

十月朔日 松平御習之改事

御進奉之改事之南月十日之改事

御之改事之改事之改事之改事

69

日月二日 松平御習之改事

見

御進奉之改事之改事之改事之改事

御進奉之改事之改事之改事之改事

徳之儀乃申各相系之申有先之月少防
不浪高一境之候了之申高津州藏之申
御之申動定之申表判之申清之申取之申
照之申教之申授持之申取之申取之申
心善之申

有之申在之申徳之申方之申松平對馬守有之申
徳之申歸之申城之申申之申申之申申之申
申之申申之申申之申申之申申之申

同月同日 牧野 祐方 殿 申達

来七日申達 上之申不方之申

上之申不方之申

作之申下之申申之申方之申月之申申之申申之申
方之申之申之申之申之申之申之申之申之申
可之申切之申其之申事之申

十月四日 出之申之申之申

孫之申之申之申之申
之申之申之申之申

場之申之申之申之申之申之申之申之申
之申之申之申之申之申之申之申之申
之申之申之申之申之申之申之申之申

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

大目付

大目付

大目付

大目付

大目付

杉平渡波寺江

杉平大炊

豊多色屯集彦原了院及畧行水戸殿馬込分勤

檢以舟為這靜為水戸殿為代与格也

公儀所人取正討上不着了取業

張以舟放脚所也 候有舟水戸奉取也

尚地舟取之死在之 大炊家奉取 子舟渡波寺家奉

右の通り申上り申す事
お婦女も申上り申す事
申上り申す事

同日云

松平大監の頭
松平橋原守

右の通り申上り申す事
申上り申す事
申上り申す事

右の通り申上り申す事
申上り申す事

右の通り申上り申す事

右の通り申上り申す事

十月朔日

右の通り申上り申す事

中渡号人

大炊又源居

松平主税

名代
上野七大夫

聖家道屯集浮原
権以有る信静
公儀御人敷
不申す所

業以有友修張 百放津野野 任有以優之千方儀
戶澤中務大捕 上河野野 任有之

松平未親

官位新 百放

考之使到 仰答之 萬日人 一國之列 中母之 大月付
上屋 亦之 亦之 亦之

十一月朔日

仰答之 萬日人 一國之列 中母之 大月付

立花元淳

乞利大務又下追討 任有以有南之 内務丹
之任之 任有以有南之 内務丹
少報 亦之 亦之 亦之 府中 任有以有南之 内務丹
之夫 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹
以 亦之 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹
大務 亦之 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹
後 亦之 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹
任有以有南之 内務丹 亦之 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹
任有以有南之 内務丹 亦之 亦之 亦之 亦之 任有以有南之 内務丹

水戸殿家元御中三十五郎格奉書付
今度松平大炊頭右水戸表は信濃國水戸殿
波重志忍入に事柄不候し御定
城下格と先給に在事不付候中是より候し奉る

十月十二日

弟丸

水戸殿家元右水戸に事
鎌倉英禰寺無任に申す水戸殿御格女正姫御方由申
以申お趣に候に事不付申す御都合候事不付候
是より候し申す事不付申す上事奉

十月十五日

水戸に事不付申す事奉

津目付

戸川洋三郎

来日十五日尾張前大細之殿大板に申すに候し申す
其旨係来日十四日申付申すに候し申すに候し
毛利大膳又子、南進廢し
申す意不付申す候し奉
右に通すに事不付申すに候し申すに候し

十月十五日

水戸殿書

今日方知...

十三日所...

右之...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

水戸殿書

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

古井山内... 池田橋... 十月十九日

十月十九日

浪人島道守

岩名智助三郎

右... 十月十日

十月十日

酒井左衛門尉

伊豆...

手... 古井山内... 池田橋... 十月十九日

二十列原之原因柄初年深原科政之と外集
之原河原等と物と並つ得也一月其の多難之に
合寺乃に和書外等由と面と上之平上と公上

寺山

舍田西助平

元原元子年

今家平代治平

村上仙虎平

遠方乃心平

太田伊勢平

後道又左衛門平

杉崎源所平

吉田吉三郎平

後道忠裕平

吉加美吉三郎平

仁井田中馬平

杉沼為吉平

仁井田吉三郎平

櫻村盛隆平

坂本久右平

杉沼河助平

仙臺
清執政中候

少輔藤原朝宗
加納宗光
右内膳吉兼平

[Faint bleed-through text from the reverse side]

仙臺清執政中候

酒井大直尉

于方家集才云々十七日
平右衛門尉
得尾史
五格段
夫々
十月廿二日

酒井雅樂頭

[Faint bleed-through text from the reverse side]

為御用後日之望 城之為り事 御之御役

御分り事 各千位 皇下世 御分御得事 皇下御事

御分り事 十月廿三日 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

付奉

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

御分り事 御分御得事 皇下御事

... 上杉陣... 先有... 至... 致... 定... 人... 与... 確...

... 上杉陣... 先有... 至... 致... 定... 人... 与... 確...

おつて留候とては、
後領と云ふは、
理地と云ふは、
小正村と云ふは、
依りて、
形と云ふは、
而相觸、
二、
百姓、
外、

と後捕押、
と、
と、

三月九日

松山藩、
一、
と、
分、
お、
終、

おれを中へゆへ激流散亂當城下亂入民難計
用いしりて当地を岩陸に強湯より付候也
其石流はまよひ白濁濁りぬるも城西に雙村と云
十人申付候と云し其石流は横りぬるも大に長防
に吉川惣物見せぬる二坑心服百姓其也吉川
惣物と如神と申し由尾公も寛大を主とし成進
の備候しぬるも其石流の中は政の大居父子
の討つぬるも其石流は成りぬるも其石流は
の石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は
陣拂に成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は

其石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は
小倉正成出ぬるも其石流は成りぬるも其石流は
海者言ふも其石流は成りぬるも其石流は
杉下藩丈も其石流は成りぬるも其石流は
其石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は
中河ふ山陰も其石流は成りぬるも其石流は
尾総智山陰も其石流は成りぬるも其石流は
バタも其石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は
之切も其石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は
其石流は成りぬるも其石流は成りぬるも其石流は

三浦

二月十九日

三島貞一序

別紙 三島節右衛門

二月十九日 幸子海に長州家元より書

少目付使の書

今度より大膳父子末家より 法征伐は

任付の尾州前大御言殿より 改らば御酒の御言

を御物より御酒の御言 義の付公より御酒の御言

の御言より御酒の御言 義の付公より御酒の御言

申渡し

毛利大膳儀 筆入奉り 楚言 屢陪臣 福原越後

も亦右に御給托 其実々強訴 田司信濃 邑田右馬門分

中道より出の交實大仁怒と難扱之更、悔悟之意

たし言とた名、案不容易趣と合、次、自兵端を閉

對 禁濶蕪砲の糸其罪不難加之父子黒原之軍令

状園司信濃、授小由全軍謀然、小旁防長、押寄進

可追討旨 御所より 仰出の付也 皆尾法前大御言殿

副羽松平越前守 朝廷 幕府之命を奉り 徳軍

を率為長門周防打向い罪を正さるの也

二月十九日

二月十九日 幸子海に長州家元より書

一 先年より戸川付三郎よりと信の進討しつゝ意一紙
付吉川監物より申謝罪の意ありは大膳
父子に合致す自刻の書面より申す事出
之者臣の筆に存存の筆断首の意も兼他申す事
申す事無き事引二指申す事付附属の原簿より
始末より申す事あり

山一後新親の筆より申す事付子連致事あり
並田右の如き首級吉川監物に括申す事付子連致事あり
監物に引合渡す事四方に申す事付子連致事あり
他方次第國奉寺致書に申す事付子連致事あり

十二月廿七日の書

一 毛利大膳後進謝罪の意ありは申す事付子連致事あり
申す事無き事引二指申す事付附属の原簿より
始末より申す事あり

但本文より申す事付子連致事ありは申す事付子連致事あり
不詳に申す事付子連致事ありは申す事付子連致事あり

十二月廿七日

尾張前大納言

十二月廿七日の出立

尾張前大納言殿に申す事付子連致事ありは申す事付子連致事あり

新に呼ぶ事、服気致し是と長州に滞^{在カ}、三條實長、
初之人、孝共列し是取去、
中務大輔、松平修理、松平肥前守、
又、松平、
為千代中、
御中、
封兼、
元斗、
所至、

二月廿六日

松平美濃守

信州より遠頃百村不出村

尚月廿一日野原浪人九子、
百村、
甲冑、
移身、
情、
壽、
矢、
村、
了、

と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、
村人より五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、

と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、

おかしき事あり

昔中山道に浪人子三百十五人集り、
松本様中並に我仕松本家中拾八人赤犯
跡に豊崎岩三浪防採中並に我仕、
大付戦跡浪防採具足拾五大旗炮了了浪之
拾五小旗炮了了浪人共、
と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、
と申すは同勢五百人にて、

十二日在伊奈郡小出村より久々九杉三人
了り抄止る事引上仕合

十二月廿五日

酒井左衛門尉
此度十七万石格と申下出上畢竟伊府内所在
第一之度厚水勾取以有先般为伊高下上地
所取来上之通致 任出申取出格之儀と申
得新御出上勾論小林是之助始門身是之助
同格取扱十七万石之御軍役取勤以扱分三
任出申系上は行上之意申

酒井左衛門尉

此度十七万石格と申下出上畢竟伊府内所
第一之度厚水勾取以有先般为伊高下上地
所取来上之通致 任出申取出格之儀と申
得新御出上勾論小林是之助始門身是之助
同格取扱十七万石之御軍役取勤以扱分三
任出申系上は行上之意申

十二月十五日抄取

御力 肥前國國弘 代金百枚

松平肥後守 名代 米俵伊勢守

毛利大膳家年有五人相押入京道
禁闕乃礼妨以言病守中々子承多
内御守護之儀格別言形也毎家才大知之信
能命烈我政山清者以人相重也一承之切不之核
群亦勵以成在 御聽以兼之法 任也並以職者
存相如切之信 御藩使之切之信
思召以依之切之信

御刀

越中國則金
代金百五十枚

松平修理吉良

名代
久為島津隼守

口以之命 在之京之京東子承出法及烈我城境

才氏集之在之 天新之在之 進之切居之 移解古御

信之 高標 御信泥之 思召以依之在之

十二月十九日

子丑三月 和泉守横山渡

大目付
小目付

大目付

所寺部

山部寺部

月切如毫之儀はるに成りてはたしめ病丸
 痛所より有るに切儀如難お申、是れは病丸
 丸より少盛老、七拍り儀、付お病、防りた、而
 病丸痛所より有るに、月切如毫お病、お病、お病
 三拍り、お病、お病、お病

常野由州狼之、城法和田山端、言誦筋因情、お病
 少人、戦、戦、お病、お病、お病

- 一 賞 用入
- 一 槍底 源手
- 一 銃砲 源手
- 一 三浦象太

- 一 因形 花間万吉
- 一 討死 三輪依多吉
- 一 法砲 孫相吉藏
- 一 太刀底 子助於菟
- 一 死骸 源手忠吉
- 一 討死 林 久吉
- 一 回刃 早山源二郎
- 一 鉄砲 右田三平
- 一 槍底 源手

肝煎
 源手忠吉

一 死骸不相分 生死不知

一 鉄砲 為目

一 日 乃

一 口 乃

一 討死

一 鉄砲 源目

一 討死

討取 以 分免

一 士首

他賭方小野激清一節と懐中書記者一陣羽着在り

宮坂如多系

系 之 奥就

子出徳務

多切清左

矢清与市

小平信吉

小者 之 人

一 日

他名前不詳 河 陣羽着在り

一 討取

十三人

他撰載し初首取と揚の同合意し賊徒脱走し初首計

持外其外子員有 の 取分不詳

戦地 之 取揚 の 目免

一 刀

一 腰

一 脇差

四 腰

一 槍

二 筋

一 兜

一 口

一 刀工一

一 挺

一 小銃

四 挺

一 新但四反筒

一 挺

一 小銃

一 挺

一 陣羽打

一 挺

但禮水府義士作未済し所記有

一 小刀

二 指

一 佩指

一 指

一 床机

一 指

一 鉢鉄

一 指

一 槍身

一 本

一 荷印

五 本

一 明長持

三 棹

一 帳面

一 指

但表帛照方巾那漆清一節し恐有

一 籠物

一 指

右通上在不足

三月

一 十二月

講武所奉行 堀 石見也

名 友堂康之志

思言有之少役 清之形列之白二子石氏

言上通塞也 仰付

大之吹於中法中苑老中列序美濃之清之存付
駒井田變守目付隴活新吉郎打紙入

一十二月廿五

新易

須田久太郎

形以易
半乃乃熱原
權政所其の支配

大易易以
知測方世信守
貞諾

右田祐之丞

改易

其方古儀

清盛の休老の法の謹懐と其の交
津威光輝の法の存意の建白
以の心掛存意中 調物有之 徳因法系
以の心掛存意中 調物有之 徳因法系
以の心掛存意中 調物有之 徳因法系
其の心掛存意中 調物有之 徳因法系
其の心掛存意中 調物有之 徳因法系
其の心掛存意中 調物有之 徳因法系

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

子 三月廿六日

牧野浦舟多般沙道

御城内門向入出改言池り後方より言ありはりて言入
り後可長段に

右之路 御城内門向より言ありはりて言入

河川口

御城内門向御城内門向言入りはりて言入
今改言池り後方より言ありはりて言入

御城内門向御城内門向言入りはりて言入

御城内門向御城内門向言入りはりて言入

御城内門向御城内門向言入りはりて言入

抄本

清和九年...

...

1 ...

...

...

...

...

...

...

